

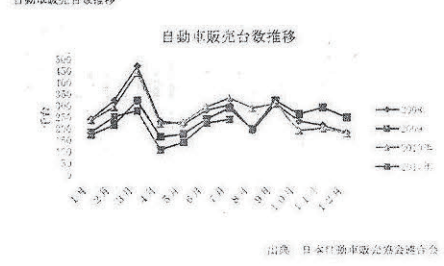
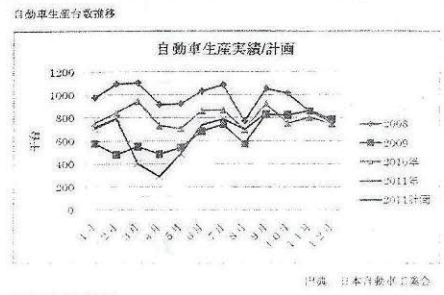
発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
大電 話(06)6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電 話(076)444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3カ月22,050円

日刊メタルレポート

住友金属鉱山電気亜鉛
蒸溜亜鉛・原料指定問屋
亜鉛ドross・滓買入
大阪亜鉛工業株式会社
取締役社長 林 昭 宏
〒555-1 大阪市西淀川区佃四丁目一四番三号
06-6471-2531 代表
〒131 東京都墨田区立花二丁目四番五号
03(三)3618-1355 FAX

新幹線を支える
イクチの銅合金インゴット
高品質を追求するイクチの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています
株式会社 **イクチ**
〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2355
青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種
N700系
のぞみ
(時速300km)

◆自動車生産台数			
	4月	5月	6月
生産台数	29万2001台	48万9723台	74万2431台
前月比	-27.8%	+67.7%	-51.6%
昨年対比	-60.1%	-30.9%	-13.9%
◆自動車販売台数			
	5月	6月	7月
販売台数	14万2154台	22万5024台	24万1472台
前月比	+30.6%	+50.3%	+7.3%
昨年対比	-37.8%	-23.3%	-27.6%
◆生産計画台数			
	7月	8月	9月
生産計画台数	79万700台	89万6400台	83万7700台
前月比	+8.3%	-11.9%	+20.3%



【前月の経済指標】
◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比五・六％増の七
四万二、四三一〇台であった。
◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は七・
三％増の二四万一、四七二台。

なこと。さらにFRBバーナンキ議長がFOMCで追加的金融緩和(QE3)
について言及したことから、流動性資金の流入やドル安も手伝う形で九、六
五五ドル(セツルメント)と九、五〇〇ドルを突破しての前半締めとなった。
後半は、欧州銀ストレストを可もなく不可もなく通過するも、HSB
C発表の中国PMI(消費者物価)が四八・九と二八カ月ぶりに五〇を割り
込んだこと、米ムーディーズのギリシャ国債の三段階格下げなどファンダメ
ンタルズが悪化したのが、チリのエスコンディータ鉱山でのストが長期様相の
様相を見せ始めBHPピリトンがフォースマジェニールを発売した事、米連邦
債務上限引き上げが合意を得た事から結果ファンダメンタルズが改善、投機
資金が流入、七月四日現在で九、七三〇ドル(セツルメント)、建値八〇万円
のスタートとなった。



橋本健一郎氏

輸入は電気銅六二・四％減
スクラップ六〇・六％増

橋本金属 橋本健一郎氏レポート①

【概況】七月前半は、ギリシャ国債デフォルト懸念を
発端とする欧州懸念が台頭するものの、ECBが予
測どおりユーロ圏全体のインフレを意識し〇・二五
％利上げしたこと、それによるドル安。また米投資
会社ゴールドマンサックスやモルガンスタンレー
が二〇一一年の銅価格に強気の相場展開を発表し

国内電気銅需給バランスや過剰か

銅建 七四〇八二万円程度の予測

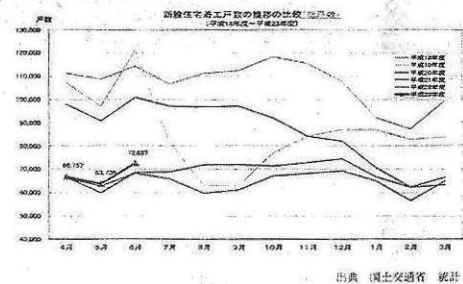
一五八t。

(二面より続く)
 ◆三方月間の自動車生産計画は昨年対比六・四%減の二三二万四千台。

◆新設住宅着工戸数
 国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)〇・三%増(昨年比五・八%増)の七万二、六八七戸であった。

◆新設住宅着工戸数

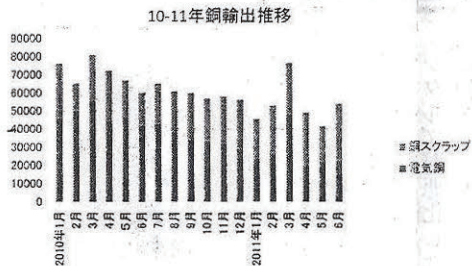
	4月	5月	6月
新設住宅着工数	6万6737戸	6万3726戸	7万2687戸
季節調整・前月比	-1.1%	+2.1%	+0.3%
昨年対比	+0.3%	+6.4%	+5.8%



◆貿易関連指標

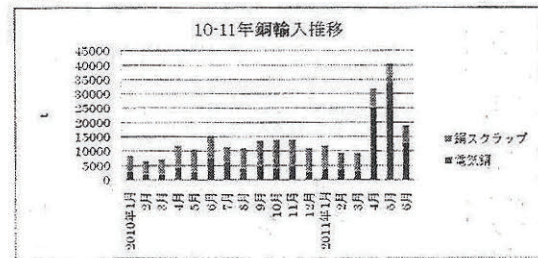
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が三・一%増の二万二、六五六t、スクラップが六〇・六%増の三万二、三〇一t。

輸出	4月	5月	6月
電気銅	1万9951t	2万1984t	2万2656t
前月比	-58.3%	+10.2%	+3.1%
スクラップ	2万8993t	1万9494t	3万1301t
前月比	+6%	-32.8%	+60.6%



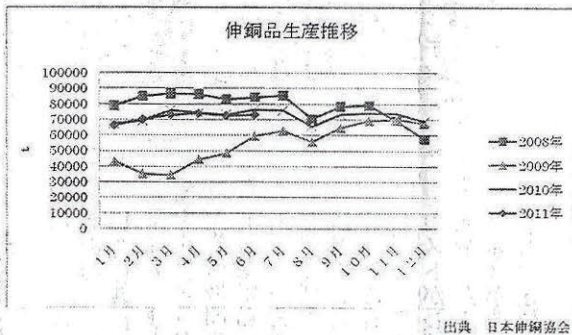
輸入は電気銅が前月比六二・四%減の一萬二、六七六t。スクラップ七・二%減の六

輸入	4月	5月	6月
電気銅	2万5131t	3万3737t	1万2676t
前月比	+835.6%	+34.2%	-62.4%
スクラップ	6752t	6639t	6158t
前月比	+3.1%	-1.7%	-7.2%



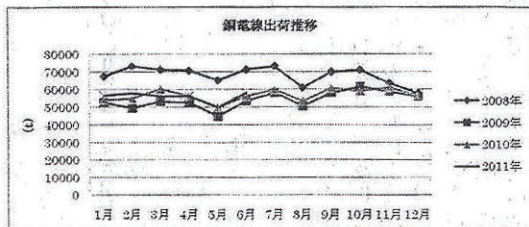
【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比〇・七%増の七万三、一七〇t(昨年対比四・二%減)。



日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前月比一六・七%増の五万八、〇〇〇tであった(昨年対比三・四%増)。(六面に続く)

(二) 面より続く



出典 日本電線工業会

【見通し】

急激な生産回復に需要は一服、やや供給過剰気味な月となった。

引き続き自動車生産は前月比五一・六%増の七四万二千台と急回復、前年比も一四%減と前月の三一%減から大幅改善した。

しかし国内自動車販売は二四万一千台で前月比七・三%増と伸び悩み、前年比二八%減と前月の二三%減から小幅悪化した。

復興需要品種が多い(エアコンパイプ、ガス、水回り系)伸銅品生産量は前月比〇・七%増の七万三千tと昨年対比(四・二%減)とほぼ回復するものの頭打ち。今後の需要待

六月の米製造業受注〇・八%減

輸送関連除き〇・一%増—商務省

米商務省は三日、六月の製造業受注が四、四〇六億九、四〇〇万ドルと、前月比〇・八%減少したと発表した。航空機・同部品の落ち込みが目立った。前月は〇・六%増だった。市場予想(ロイター通信調べ)は〇・七%減。

変動の激しい輸送関連を除くと〇・一%増(前月は横ばい)、国防関連を除くと〇・七%減(同〇・四%増)。

六月は耐久財が一・九%減。輸送機器は八・六%減。うち民間航空機・同部品は二八・九%、国防用航空機・同部品は二〇・五%それぞれ大幅に落ち込んだ。自動車・同部品は二・七%減。

機械類は一・九%減。コンピュータ・電子機器は〇・八%増。一次金属は〇・一%増。

ちの状態。
一方、銅電線出荷量は前月比一六・七%増の五万八、〇〇〇tで昨年対比三%増と、好調な自動車生産を背景に上昇、今後は一服か。新設住宅着工数は季節調整済みで前月比〇・三%増の七万二千戸台。前年比で五・八%増と大幅改善。

輸出に関しては復興需要の一服、中国上海在庫の減少からの需要で銅スクラップ輸出が前月比六〇・六%増の三万一千tと大幅増加。輸入に関しては電気銅は前月までの緊急輸入が一服、前月比六二・四%減、昨年比二四%減の一万二、六〇〇tと大幅調整となった。銅需給に関しては、前月からは一転、生産面では震災前までの需要を前提とした稼働、生産計画が進むものの、販売面では自動車、住宅とも前年の八割、もしくは前年並みと大幅に伸び悩んでいる。それに伴い早期生産回復にあつた伸銅品、黄銅棒の生産調整が行われるのではないかと。また四、五月ともに昨年比で一二倍程度の緊急輸入がされていた電気銅も前月比六二・四%減と大きく落として需給バランスはやや過剰と予測。

銅価格に関しては、チリ鉱山のストの長期化を受けて上昇する場面があるも危惧されていた米連邦債務上限引き上げが合意に至ったことからのドル高予測や中国の金融引締め、米欧の経済指標を受けLME価格で九、〇〇〇～一〇、〇〇〇ドル。銅建値に関しては七四～八二万円程度と予測している。

非耐久財は横ばいだった。また、資本財は三・四%減。国防資本財は三・八%減、非国防資本財は三・四%減少した。

設備投資の先行指標となる航空機を除き非国防資本財受注は〇・四%増(前月は一・九%増)。設備投資の一致指標となるコア資本財出荷は一・二%増(前月は一・七%増)。

六月の製造業出荷額(半導体含む)は前月比〇・二%増の四、四四三億二、九〇〇万ドル。同月末の未済受注残高(半導体除く)は〇・三%増の八、六三三億三、七〇〇万ドル。

◇KLTMTMすず相場
四日 二六・八五〇 米ドル
四日 四五 トン